

年頭のご挨拶

クロマトグラフィー科学会会長
大塚 浩二

クロマトグラフィー科学会会員各位におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素から本学会の活動に対してご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。クロマトグラフィー科学会は、1989年（平成元年）の発足以来、着実に歩みを続け、本年は設立30周年という大きな節目にあたります。

昨年の年頭挨拶でも申し上げておりますが、分離科学におけるクロマトグラフィーは、基礎から応用までを含めた学術領域としてはもちろん、様々な分野における実践手法として、その重要性はますます高まってきており、より一層クロマトグラフィー研究が発展することを旨として本学会の運営を行って参りたいと考えております。

本学会の活動の柱は、年2回の学術会議（シンポジウム及び科学会議）の開催、会誌CHROMATOGRAPHYの発行、さらに学会賞・奨励賞等各種褒賞事業にあります。これらの中で、近年はCHROMATOGRAPHY誌の改革を大きな課題として位置付けており、同誌のインパクトファクター（IF）取得を目指し、浜瀬編集委員長、齊戸事務局長（副編集委員長）、植田Web担当委員を中心とした編集委員会主導の下で様々な改善策を講じて参りました。その成果としてCHROMATOGRAPHY誌は現在クラリベイト・アナリティクス社のEmerging Sources Citation Index（ESCI）掲載誌となっており、IF取得も現実味を帯びて参りました。とは言え、現在の発刊水準を維持していくことは決して容易なことではなく、会員の皆様の積極的なご協力が不可欠であることは言うまでもありません。会員の皆様におかれましては、このような取り組みにご理解いただき、CHROMATOGRAPHY誌への積極的なご投稿をお願い致したく存じます。また、論文ご執筆の際にはCHROMATOGRAPHY誌掲載論文を積極的に引用していただきますようお願い申し上げます。

本学会は、歴代の会長・執行部の優れたイニシアティブの下、会員の皆様のたゆまぬ努力とご協力によって発展して参りました。私はその基本路線を堅持しつつ、幅広い研究分野との融合・協力関係の強化を図り、本学会のプレゼンスを一層高めるべく引き続き努力する所存でございます。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。